

# 健康産業新聞

第1617号(第1部)

発行所 UBMメディア株式会社  
本社 ● 〒101-0044 東京都千代田区  
 観音町1-8-3 神田91ビル  
 ☎03(5296)1011 住 FAX 03(5296)1010  
 ◆年間購読料20,000円(税別)  
 (郵便振替00190-1-20833)

最新刊  
健康食品・化粧品等  
受託製造企業  
ガイドブック  
付録 受託試験企業 原料サプライヤー  
発行/UBMメディア株式会社

THE HEALTH INDUSTRY NEWS ©UBMメディア株式会社 2017

## 2016年度DgS市場、6.5兆円規模に

日本チェーンドラッグストア協会 (JACDS) は先月、2016年度の全国ドラッグストアの総売上高が前年比5.9%増の6兆4,916億円だったとする調査結果を発表した。同協会では、ドラッグストアの継続的成長を実現するために、次世代ドラッグストアビジョンを策定。地域に根差した「街の健康ハブステーション」の構築を推進していく。そのうえで、「機能性表示食品、スマイルケア食への対応」「高齢者の健康寿命、生活、介護への対応」「セルフメディケーション税制への対応」「人材育成の強化」など、取り組むべき課題を挙げた。機能性表示食品では今年中に受理商品が1,200品目を超えると予想。今年、部位・機能別といったコーナーを設けるなど、店舗での売り場づくりのトライアルを始める。登録販売者などを活用した情報提供体制の整備も進め、来年は健康に寄与する関連食品と合わせ、売り場を一新する計画だ。

### 10兆円産業に向け「街の健康ハブステーション」構築に

ここ数年、全国のドラッグストア総売上高は約1%増と伸び率が鈍化していたが、2016年度は、食品の取り扱いの強化、訪日外国人によるインバウンド需要に加え、出店店舗数が増え、前年比約6%増の伸び率につながった。カテゴリー別では、食品全般、家庭雑貨、衣料雑貨などの「その他」売上高が、6.4%増の1兆6,473億円で最も高い伸び率を示した。このほか、「医薬品」(2兆874億円・6.2%増)、「化粧品」(1兆3,670億円・5.4%増)、「雑貨」(1兆3,899億円・5.2%増)も5%から6%台の伸び率となった。ドラッグストアの総店舗数は、395店舗増え、1万8,874店舗となった。近年は、調剤や食品を中心とす

る取り扱いカテゴリーの増加に伴う大型店と駅前や繁華街などに出現する小型店の2極化傾向が続いている。

一方、同協会では、10兆円産業を目指すべく、次世代ドラッグストアビジョンを策定。健康に関する多様な相談を受けつけ、店舗で解決できない問題は、地域の専門家を紹介するなど、地域連携を強化した「街の健康ハブステーション」の構築を目指す。従来のドラッグストアの基本機能に加え、健康サポート機能を満たした店舗に対して「健康サポートドラッグ」として認定していく。

### 機能性表示食品、来春に売り場を一新 需要高まるプロテインにも注目

機能性表示食品に対する取り組みでは、店舗の売り場では、商品数が少なかったことから、単品訴求にとどまっていた。同協会では、機能性表示食品の受理商品が1,000品目を超えることが確実とされるなか、今春から秋に向けて店舗での売り場づくりのトライアルを実施していく。具体的には、ビタミン・ミネラルなどの栄養機能食品や、関連食品と併せ

## “機能性表示食品” 売り場づくり、本格始動

て独立した売り場をつくり、部位別、機能別、成分別、ブランド別に棚割をつくるという。同協会では「サプリメントの初心者には部位別、機能別陳列が欠かせない」としている。

現在、機能性表示食品の販売に関するマニュアルのほか、店内掲示ポスター、顧客用配布パンフレットも制作しており、JACDS会員企業に配布していく。また、商品を陳列するだけでなく、ドラッグストアコンシェルジュを通じて、顧客に適切な情報を伝えていく。“わかりやすい売り場”と“適切な情報提供体制”の整備を進め、来年、本格展開していく。

介護食品では、農水省基準の「スマイルケア食」、日本介護食品協会基準の「UDF食」、そのほかの介護食品を含めて、「スマイルケア食品」として名称を統一。高齢者の食事と栄養問題を解決できる売り場づくりを進めていく。こ



のほか、売上げが増加傾向にあるプロテインに着目。アスリート向けだけでなく、ダイエット用や一般のスポーツ愛好者に加え、高齢者の低栄養予防用の商品も上げを伸ばしており、新たなコンセプトでプロテインの新市場創出が期待できるとしている。

### 本号の主な記事・特集

総合	特集
特保運用改善、消費者行が対応策：2面 (2~3面)	化粧品開発最前線
話題/追跡：“ミニ規制緩和”利用100件超 産業活性化に期待：4面 (4~10面)	過去最大のCITE JAPAN5月に開幕 (21~25)
エビデンス	注目の薬類由来素材
ホチヤスアローザルゲルアルカイマー改訂作用 (11面)	ユーグレナ100種、フコイダン150種 新素材も (29~33)
地方	セラミド
沖縄、健食ブランド化で「2期建」認証制度 (12面)	セラミド前線到来、例年より早く (34~35)
海外	カプセル技術
米国のトレンド、ナチュラルプロダクツ (13面)	多彩なアプリケーション続々、市場拡大 (40~44)
健康機器	ブルーベリー
化粧品	国内流通100トン突破、加工食品に商機 (45~47)
2016年フィットネスクラブ売上、3,200億円台に (14面)	ニンニク
新商品	スタミナ素材の代名詞、新素材・商品も (48~49)
新製品6社紹介 (15面)	大麦
薬系	世界が注目、大ブームは継続中 (50~51)
健康サポート薬局制度の戦略：日本調剤後 (16面)	企業別冊：金秀バイオ株
統合医療	
医療機関・漢方製剤クリニック/漢方師一長 (17面)	
ダイエット	
食・薬・健康協会、ロカボ普及イベント開く (18面)	
イベント	
スケジュール	
4~5月スケジュールなど (19面)	
資料	
新たな原料原産地表示制度に係る考え方 (20面)	

### 「街の健康ハブステーション」構想の流れ

